

立高探究通信 (仮)

第2号
令和2年7月15日

地球惑星連合学会で発表!

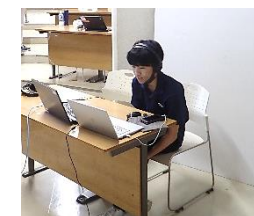
第1号でお知らせした通り、3年生の浜島君、田中君、馬場君が地球惑星連合の学会で発表をしました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、初めてのオンライン開催となりました。3人も発表をした高校生の部では、全国から約65本の発表がありました。ZOOMを使い1分で大学の先生やJAXAの研究者などにPRをし、iPosterというポスター発表用のアプリで作成・アップロードした自分たちのポスターを見に来てもらい、質疑応答をするという方式で行いました。



初めてのオンライン学会で、うまくいかないところもありましたが、全国津々浦々の発表の要旨を聞くことは大変興味深い体験でした。やはり研究には「地域のカラー」が出るものですね。

今回の発表の様子やポスターは、動画にまとめて立高YouTubeで公開する予定です。準備ができ次第お知らせしますので、楽しみに!



卒業生の活躍

卒業生の活躍のお便りが舞い込みましたので紹介します!! すごい!!

樋口陽光君は69期生 現在電気通信大学の4年生で2年前から本校SSHのTA(ティーチングアシスタント)をお願いしておりお世話になった2・3年生もいるかと思えます。彼は天文気象部に所属して主に黒点に関する研究を行い、高2の時に地球惑星連合学会や天文学会で発表しました。この経験を基に、黒点観測を機械学習でできないかというアイデアを形にし、**大学2年の3月に電気情報通信学会で発表しました。**一般的に学会で発表するのは大学4年生や大学院生以上の研究者で、学部2年生が出ることはめったにないことですが、彼の研究を目にした大学の先生が論文を書くことをすすめてくれ、発表に至ったそうです。

今回はその研究が高く評価され、学会から「学術奨励賞」受賞者に選ばれました。この賞は優秀な若手研究者に贈られる賞で、彼以外は大学4年から、大学院生、企業の研究者など皆年上です。記載には、出身校が出ますが、彼は「立川高校」と書かれており、他はみな大学か大学院である中で大変誇らしいことです。

入試の時、彼は早稲田理工学部も受かりましたが、国立大学である電気通信大学に選んで大変良かったと話していました

他にも大学で活躍している卒業生は数多くいて、勉強だけでなく、課題研究や部活、行事などの経験が思わぬ形で生かされたり、将来に繋がったりしていると感じます。

皆さんが、今、エネルギーを傾けたことが、新たな道の開拓につながる土台となることを願っています。(文責:可長)

賞 状

樋口 陽光 殿

深層学習による太陽画像からの 太陽黒点数の推定

於 2019年電子情報通信学会総大会
あなたの標記講演は学術奨励賞
ここに本会選奨規程により賞状
2020年3月19日

一般社団法人
EIC
会長

電子情報通信学会
中沢 正隆

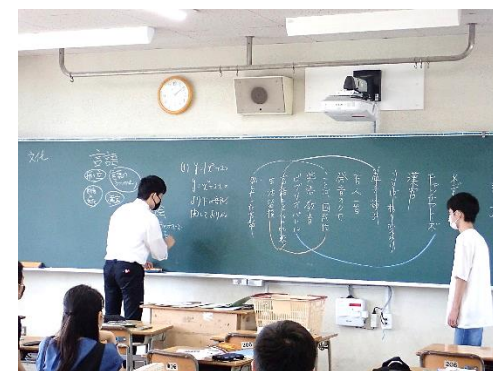
探究委員レポート

皆さん、こんにちは。先週の「立高探究通信」の探究委員レポートは読んでくれたでしょうか。毎週、各学級の探究委員がローテーションで回しながら書いています。ぜひ毎週、目を通してみてください!

■SS 課題研究 I 研究グループ活動開始(7/4)

先日、7月4日(土)に、各研究グループに分かれての探究活動がスタートしました。自分の興味・関心をもとに希望した研究グループが決定してから初めてのグループ活動です。これから、課題研究 I の活動が本格的に始まっていきます。

まず始めは、その研究グループを担当する先生方の自己紹介から。とは言っても、ただの自己紹介ではありません。生徒である私たち自身が自ら先生に対しての質問を考えて、答えてもらうという形式のもの。どんな情報を聞き出したらより相手のことを知ることができるのか。自分たち一人一人が考えるからこそ完成する先生のプロフィールづくりです。



また、生徒同士で自分が探究の授業でしたいことを互いに話し合いました。初対面の人も多くいましたが、その中でも積極的に交流ができていました。グループで分かっていたため、それぞれがその分野について詳しく話すことができました。

■まとめ

探究の授業は自分が決めたテーマについてここから約半年かけて研究していきます。そのため、「テーマ決め」はとても重要です。みなさん、ぜひ自分が興味を持っていることや疑問に思っていることについて少し考えてみてください。そして、自分が研究したいと思うテーマを決めていきましょう!!

いよいよ、本格的に探究の授業が始まっていきます! みなさん、もうテーマは決めましたか? おそらく、まだ決めていない人もたくさんいると思います。そこで、参考になりそうなサイトを見つけました!! ぜひ、活用してみてください!! ↓↓

<http://www.ams.eng.osaka-u.ac.jp/user/ishihara/?p-1895>



担当: 1B 探究委員 (小池・藤野)